第２７回市民自治推進委員会　都市調和部会会議録

（敬称略）

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 令和２年２月２５日（火）　１８：３０～２０：００ |
| 開催場所 | 登別市役所本庁舎　第２委員会室 |
| 出席者 | (部 会 長)山下　克彦　（副部会長）谷﨑　博美(部 会 員)荒川　昌伸、工藤　保秋、冨永　史人(庁内委員)相馬　裕一(事 務 局)大越　智輝、伊藤　慶一郎 |
| 欠席者 | (部 会 員）西尾　拓也(庁内委員）佐藤　智(事 務 局）今野　沙弥 |
| 議題 | 登別市本庁舎建設基本計画中間案のパブリックコメントの内容について |

～２月１４日から開始している登別市本庁舎基本計画中間案のパブリックコメントの内容について、総務グループ土門総括主幹から説明を行った。～

【登別市本庁舎建設基本計画中間案のパブリックコメントの内容について】

※該当するページ数は割愛し、説明があった内容を箇条書きで記載。

（第１章　本庁舎の課題と現状について）

・建物の老朽化により、慢性的な雨漏りやコンクリートの剥離、配管やトイレの詰まり、暖房設備の不具合などが発生している。

・現状、耐震性は全く確保されておらず、耐震補強をすると筋交いだらけの部屋になるため、補強という選択肢は難しい。

・に伴い、各部署が分散化しており、事務の効率化が図られない問題がある。

・バリアフリー化が進んでいるとは言いがたく、市民が利活用できるスペースもとれていない。

・施設整備の手法は、耐震改修と併せて大規模改修を行う方法と、全面建替えの方法があるが、防災や利便性の向上、行政業務の効率化を考え、全面建替えの方針をとることを決定している。

・建設場所は、市民が来庁しやすい最善の場として現敷地内とした。津波浸水区域内に位置するが、災害対策機能や非常用電源設備、備蓄倉庫を高層階に備えるなど、津波対策への配慮により対策が可能と考えている。

（第２章　新庁舎建設の基本的な考え方について）

・新庁舎建設のコンセプトは、市民の安全安心を守り、市民が集い、協働のための庁舎と考えている。

・新庁舎建設の基本方針として、①市民の安全安心を支える庁舎、②市民が集い、活用できる憩いの場となる庁舎、③誰もが利用しやすく、人や環境に優しい庁舎、④使いやすく効率的な庁舎と設定した。

・平成29年11月、地区懇談会等において市役所本庁舎建替えの基本的な考え方を示し、平成30年９月に基本構想策定をした。現在、令和２年３月に基本計画の策定を目指して調整している。このあと、基本設計、実施設計、着工と進んでいく。

（第３章　新庁舎導入機能に関する検討）

・３章は、新庁舎にどのような機能を持たせるか、どのような考え方で整備していくのかまとめている。基本的には、年齢や障がいの有無に関わらず、誰もが分かりやすく、使いやすい施設を目指して整備していく。

・案内機能の設置、通路の段差をなくすなど、誰でも使いやすいようにする。キッズスペースや多目的トイレの設置も考えている。

・１階に市民生活部、保健福祉部といった市民の利用頻度が高い窓口を設置することを考えている。現在も同じ配置になっているが、狭隘なところがあり、高齢・介護グループが３階にあることを解消したいと考えている。

・フロア構成は大きく分けて、１つのフロアでお客さまが移動していくワンフロアサービスと、係員がどんどん変わっていくワンストップサービスがある。

・ワンストップサービスは、お客さまが動かないため利便性は高いが、係がどんどん変わっていくことで待ち時間が長くなる傾向がある。

・今も状況を見ながらワンストップサービスに近いサービスをやっているが、基本的にはワンフロアサービスで、必要に応じて職員が窓口に出向いてサービスを提供する方法を取り入れていきたい。

・執務室はオープンスペースを基本として、コンパクトで効率的な職場配置を可能とするユニバーサルレイアウトを導入することを考えている。会議室や休養室は現状不十分であるため、整理を進めていく。

・分散化している部署は、基本構想の策定時には環境対策Gを除いてほとんどのグループを本庁舎に持っていく考えだったが、教育委員会は当面の間、市民会館を使うことで方針を変更した。

・理由は、今後さらなる人口減少が考えられ、職員数も減らしていく必要がある。職員数が減ってきたときに改めて、教育委員会の職員を本庁舎に集約することを考えたい。

・議会機能は、現在は直列配置型という従来型の方式を取り入れているが、他に対面配置型、円形配置型などを採用している市町村がある。床もフラットな形式と段床式がある。議会と話をしながら、市にあった議会のあり方を考えていく。

・議場の規模は、他の自治体は議員１人あたり10～12㎡程度で作られている。登別市議会が19名であるため、190～230㎡くらいの大きさになると考えている。傍聴席や委員会室についても、バリアフリー化を進めたスペースを確保していきたいと考えてる。

・耐震性能の確保については、国の定めた官庁施設の総合耐震計画基準に準じて、耐震安全性の目標をⅠ類、A類、甲類に設定することにしており、高い耐震性を有する基準を持たせる。

・構造形式は、耐震構造、制震構造、免震構造などがあり、どの形式をとっても耐震安全性を確保することができるが、登別市の庁舎の規模や建設コスト、工期などを考えると、一般的な耐震構造が良いと考えている。

・建物の構造種別は大きく分けて、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄構造造がある。耐久性、耐火性に優れる鉄筋コンクリート造を主要構造の１つとして考えていく。また、津波に対する対策を考えると、鉄筋コンクリート造が１番効率的に整備できると考えている。

・防災機能は、ライフラインを確保することが１番大事になってくる。現庁舎は、津波浸水予測範囲の最大浸水深３～４ｍ未満の場所であるため、災害対策活動を進めるための活動拠点室や活動支援室は３階以上へ設置することとしている。

・地震災害対策として、サーバー室の免震化し、耐火区域として整備することを検討している。通信は７２時間のバックアップ機能を確保して、初動からの確実な災害対応を可能とするとともに、被災時においても一定の行政機能を維持できるように計画する。

・非常用発電機、燃料の備蓄、受水槽、トイレ用汚水貯留槽、非常用電話回線を整備することとし、太陽光発電、雨水の利用などは今後整理を検討していく。

・備蓄品は全てを本庁舎に置くのではなく、市内の公共施設に分散して置くことを考えている。

・セキュリティ面では、特定の職員だけが入れるスペース、職員だけが入れるスペース、来庁者と職員が一緒に利用できるスペース、誰でも利用できるスペースといったレベルで区分けするようにしたい。

・市民スペースは、これから市民や若手職員と登別市にあった市民スペースの話し合いを進めていく。市民が利用しやすいように休日や夜間でも解放できるセキュリティを構築する。

・wi-fiを整備し、高校生や子育て世代が集まるスペースにしたいと考えている。

（第４章　新庁舎の適正規模及び構造等に関する検討について）

・４章は、庁舎の適正な規模と構造に関する検討を整理しており、法律的なものは全てクリアしている。

・令和27年に市の人口が３万１千人くらいまで落ち込むことが推測され、職員数も比例して300人以下になると考えるが、いきなり280人規模の庁舎とする訳にはいかないため、令和５年４月１日前後の420人程度が入る庁舎をベースに考えていこうと整理している。

・人口規模や職員数から想定すると、６千㎡～１万㎡の間であれば、総務省や国土交通省の考え方に合致するものになると考えている

・３階建て～５階建てを考えており、千㎡から７千六百㎡くらいの広さになるようにしている。６千㎡～１万㎡の中には十分入っていることと、狭すぎず、スペースを取ることができると考えている。市は４階建て案をベースに考えていきたいと思っている。

・フロア構成は、１階が市民窓口、２階～３階が執務室、４階が議場というイメージとなる。

・ユニバーサルレイアウトは、横長のテーブルがあり、係ごとではなく席に合わせて職員が座るイメージで考えている。人の増減に対応可能なものを考えている。

・窓口も、繁忙期などは数を増やせるようなフレキシブルなものを考えている。

（第５章　概算事業費の算出）

・建築費の動向を見ると、上昇傾向で推移すると予想されている。型枠、鉄筋などの労働者不足も改善されていない状況から、建築費が上がっていくと考えている。

・総事業費は50～60億円と考えており、うち建築工事費は35億～40億、平米単価で48万～55万というイメージ。財源は今後の検討となるが、庁舎整備基金と地方債を利用して考えていく。

・令和２年度の市の中期財政見通しの中で、いつ基本設計に入って、実施設計を行って、工事に着手するのかという具体的なスケジュールを示したい。

（第６章　事業手法等の検討）

・事業手法は従来方式、設計建設一括方式、PFI、リースなど、いろいろな方式の整備が考えられるが、従来方式が登別市に合っているのではないかと考えている。これまでの実績や地元経済の影響などを考えた。

【意見、質問について】

質問：今後、書類は全て電子化し、紙ベースのものはなくなるのか。今の建物では書類は置ききれなくなると思う。

回答：スペースの関係もあるし、電子化は避けられないものだと思う。庁舎の建設を機に一気に進めていきたいと考えていた。

意見：書類は年数が経つと歴史的な価値が出てくる。村治類点などは歴史的な価値を持ってきて、非常に大切な物になってきている。戸籍も日本の歴史を紐解くくときに非常に大事なものになる。５年で処分するようなものはあるのか。

回答：30年、10年、５年、１年で分類している。30年というのは、30年経ったら必ず捨てるのではなくて、30年経ったときに捨てて良いか判断することになる。

意見：工事の図面は残っていた方が良いと思う。図面１枚が歴史を紐解くヒントになることが結構ある。

意見：コストや利便性を考えて、施設を集約することは順当なことだと思うが、リスク分散を考えるとばらした方が良いと思う。

回答：教育委員会が入っている市民会館は、本庁舎が使えなかったときのバックアップ機能がある。非常電源を置いていたり、防災無線の遠隔操作ができる装置を置いたり、市役所が使えなくなったときに本部として活用する。そういうところはそのまま残す形をとっていく。

意見：バックアップも非常に気になっていたが安心した。

質問：バックアップの７２時間という数字はどこから出てきたのか。現実的にはこれ以上は難しいということなのか。

回答：初動体制で大事なのは最初の３日間という考えで出てきた７２時間で、最低限そこは確保したいという考えである。

質問：初動ができなかったときは。

回答：そのための市民会館で、これから整備していく消防庁舎もその役割を担っていくと考えている。

質問：今、登別市役所の屋上はどうなっているのか。

回答：今は全く使われていない。

質問：本庁舎の屋上の機能はどうなるのか。

回答：津波の際の緊急避難場所としては使えると考えていた。避難経路も考えないと行けないが、使えるように整備したい。

質問：ヘリポートにはならないのか。

回答：広さの関係などでヘリポートは難しい。

質問：しんたに健康推進Ｇが入っているが、新庁舎ができたら本庁舎に統合して、しんたに市の職員はいなくなると考えて良いか。

回答：常駐はしないと考えている。新しくできる庁舎でできることもあるが、健診など、しんたの方が利便性が高いときは使わせてもらうことも考える。

質問：本庁舎よりしんたの方が高いところにあると思う。しんたも災害時に良いのではないか。

回答：お風呂があったり、バリアフリーになっていることを考えて、福祉避難所として使うことをメインに考えていた。

意見：災害があったとき、ボランティアが集まる場所として活用されるかと思う。消防本庁舎が富岸にできるが、本庁舎の裏手にボランティアの方が入れる土地を確保するという話を聞いていた。

回答：消防も同じような考えで広く確保する。ボランティアセンターの話を今社会福祉協議会と詰めていて、基本的には社会福祉協議会で運営してもらいたいと考えている。しんた21はボランティアセンターの活動拠点にもなってくると思っている。

質問：平時は防災本部をどう利用するのか。

　回答：会議室として使いたいと思っている。

防災本部の横に防災担当の執務室を作り、すぐに本部とやりとりでき

る体制と、資機材を出せる仕組みにしたい。

質問：津波が来て水に浸かっている場合、職員はどうやって本庁舎に来るのか。

回答：基本市役所には来られないから、市民会館や新しい消防庁舎に来ることになる。

意見：浸水地域になぜわざわざ新しいものを建てるのか。

意見：地区懇談会で、ここが１番中心で、駅が近くて利便性が良いという声が大方あって、私も聞いていて確かにと思った。

意見：個人的には陸上競技場とか少しでも高いところに建てた方が、津波のリスクは回避されるかなというところはあった。陸上競技場も普段は使っていないくてもったいないなと思った。

意見：決まったことだからそれはそれとして、津波で浸水しているときに市役所の人はどうやって来るのだろうなという疑問はもった。。

意見：大きな地震よりも、集中豪雨で水がつく可能性の方が圧倒的に高い。そういう面で言うと海抜はあまり関係ない。

　意見：津波以外でリスクがあるのはダム。下流側の町内会は危機意識を持っていて、津波より決壊の方が怖いという方も多い。去年、白石市大鷹沢はため池が決壊して上から津波のように水が来たという。どう対策を取るかしっかり考えていかないといけない。

意見：山に逃げ道をいっぱい作って、環状線みたく道路があれば市も助かると思う。札内と繋がると高速道路で札幌にも室蘭にも行ける。高速を避難や救助のアクセスに使った方が良い。新消防庁舎は絶対高速にバイパスをつけるべき。

意見：津波はしばらくないから、まちづくりのためにここに本庁舎を建てるのが良いというやり方でやられていると思う。

質問：パブリックコメントは、何通来たら良いとか基準はあるか。

回答：何通来たら良いとか、０だからだめということはない。

意見：パブリックコメントという言葉を初めて聞いたという学生が多くて、せっかくだから書いてみないかいと20枚くらい持ってきた

回答：登別市や他の自治体でもパブリックコメントで意見を求めていて、そういう制度は定着している。学生さんに関心を持っていただくことは有り難い。

質問：この会議の内容は、パブコメに準じて記録がのるのか。改めてパブコメを書いた方が良いか。

回答：改めてパブコメを書いてもらった方が良い。これはあくまでも部会としての発想や考え方のとりまとめになる。

【次回の開催について】

・次回は、都市マスタープランの話をする予定。

・新型コロナウイルスの流行で今後の展開が読めないため、３月末か４月に日程を決定する。